

6 Clavien-Dindo 分類を用いた胸腔鏡下食道切除術の合併症の検討

桑原 史郎・眞部 祥一・須藤 翔
 堅田 朋大・池野 嘉信・豊田 亮
 岩谷 昭・横山 直行・山崎 俊幸
 大谷 哲也・片柳 憲雄

新潟市民病院 消化器外科

【目的】国際的な合併症の基準となりつつある Clavien Dindo 分類を用いて左側臥位と腹臥位の合併症を比較検討する。

【対象】当科で施行した胸腔鏡下食道切除 151 例（左側臥位 76 例 腹臥位 75 例）。

【結果】合併症発生率は左側臥位：腹臥位＝65 例（86％）：52 例（70％），Grade 別では Grade Iva が左側臥位に多かった（いずれも $p < 0.05$ ）。また，C.D 分類の Grade と術後在院日数は相関していた。さらに，左側臥位では合併症数が多く Grade IVa での呼吸器合併症が多くみられた（いずれも $p < 0.05$ ）。

【結語】左側臥位では合併症発生率，合併症数が多い。Grade I，II の軽微な合併症は左側臥位と腹臥位で差はない。Grade III～V の重篤な合併症では Iva の呼吸器合併症が腹臥位で有意に少ない。

7 深達度 SS/SE 胃癌に対する大網・網嚢温存の意義に関する検討

藪崎 裕・梨本 篤・中川 悟
 松木 淳

県立がんセンター新潟病院 外科

【目的】pT2（SS），pT3（SE）胃癌に対する大網・網嚢温存術と切除術を retrospective に比較し有用性を検討した。

【対象と方法】1980 年以降，当科において CY を除いた治癒切除術が施行された SS，SE 880 例を対象とした（P1，H1，N3，M1，4 型・大型 3 型，残胃の癌，食道浸潤 3cm 以上を除く）。男性 570 例，年齢中央値 64 歳，幽切と全摘 561/319 例，SS と SE 358/522 例，大網・網嚢温存群と切除群 329/551 例。手術侵襲，術後合併症，再発形

式，遠隔成績を比較検討した。胃癌取扱い規約第 13 版に準じた。

【結果】

1. 背景因子：温存群に SS，CY0，術後補助化学療法施行例が多かった。
2. 手術侵襲：温存群/切除群の手術時間（分） $158 \pm 45/228 \pm 65$ （ $p < 0.01$ ），出血量（ml） $145 \pm 215/202 \pm 159$ （ $p < 0.01$ ）で温存群は手術時間が短く出血量が少なかった。
3. 術後合併症：腸閉塞は温存群 2.9％，切除群 7.3％で温存群が少なかった（ $p < 0.05$ ）。
4. 再発形式：腹膜再発（5.8/7.2％）を含め再発形式に差はなかった。
5. 遠隔成績：5 年生存率は全症例 76.8/72.2％，SS 88.6/75.9％と温存群が良好で（ $p < 0.05$ ），SE と SS/SE の後壁病変の比較では差はなかった。
6. 多変量解析ではリンパ節転移の有無が独立した予後因子であり，大網・網嚢切除は有意な因子ではなかった。

【結語】

1. 温存群は手術侵襲，術後合併症において有益性が認められた。
2. 大網・網嚢切除による遠隔成績の向上は認められなかった。
3. 以上より，SS，SE 症例に対する網嚢切除の意義は明らかではなかった。